

第3回 子供の教育

最近になって未成年、しかも中学生の年代の犯罪が多く発生してきていますが、昔でしたら絶対にない、考えられない犯罪です。幼い子を誘拐、監禁、そして殺人までしてしまうことが現実起きています。また、通り魔、無差別殺人と対人関係からの事件ではなく、偶然出くわした方が標的になる恐ろしいものになっています。そして更に信じられないことは、自分の子供を虐待し、最後には殺してしまうような事件もあります。学校では、いじめにあい、心の病を持った子供が登校拒否するようになったという話しも聞いています。

犯罪の多発傾向は、長引く不況の影響で、生活が厳しくなり、心にゆとりがまったくなくなり、あせりが原因で発生しているようにも思います。しかし、社会的環境だけが悪いからなのでしょうか。数十年前までは兄弟は3人、もしかしたら4,5人と多かったですね。

小さい頃から知らず知らずのうちに家族の中で、子供同士でもやっていいこと、いけないことが身についてきて、常識のある大人に育っていったように思います。最近の少子化の波が大きく打ち寄せてきており、一人っ子が多くなり、兄弟同士のルールを経験する機会がなくなってきていることも原因の一つに上げられるのではないのでしょうか。生きていく上でのルールを幼い心の中にもしっかりと築き上げられ、更に親からの躾、そして学校教育を経て心が出来上がっていくのだと思います。

学校の成績は極めて優秀で、非の打ち所がない子供と、やんちゃ坊主でいたずらばかりしていて、先生には叱られ、親にもいつも怒鳴られている子供を比べた時に、概して大人になって大成するのは後者のほうが多いようにも思います。勉学については最高のものを身に付けていても、物事の善悪の判断が全く出来ないようでは、応用問題は解決出来ませんし、いつまでも母親から離れることが出来ない子供になってしまう傾向にあるようです。

教えられることばかりで、何でも自分で体験しなくては実際のことがわからず、塀の外から覗いて見えるものと、塀の中に入って見て、触って、やってみてわかるものの違いは物凄く違っているはずです。例えば、悪いことだと頭でわかっているけど、実際経験していないと、その本当の意味はわからないのではないのでしょうか。悪い道に足を踏み込んだ時に、そこで自分の正しい判断で悪さにのめり込まないことが出来るかどうかは運命の分かれ道になってきます。

そこでの判断の物差しになるのが家庭教育ですし、その物差しを作るのが親子のコミュニケーションです。「子は親の背中を見て育つ。」と言われますが、夫婦の中が悪く、家庭の雰囲気が悪ければ、子供の心に傷がつき、気持ちが塞ぎ込んでしまうでしょう。一方的に叱り、押さえつけるのではなく、子供の立場になって話すことが大事です。まずは両親つまり夫婦が仲がよく、子供と同じ目線で心を開いた家庭環境が第一だと考えます。

「まさかうちの子に限って・・・。」という言葉をよく耳にしますが、自分の子供の心が全く見えていないのです。「先生が悪いから。」と口を開く親御さんもいらっしゃいますが、子供の心境を感じ取れないから出てくる言葉です。朝起きた時に元気に明るく、「おはよう！」と家族で挨拶してみましょう。学校教育はあくまで家庭教育の土台に立っていることを忘れてはならないはずです。ご自分の家庭を振り返ってみてはいかがでしょうか？

福島県二本松市岳温泉1丁目1番地

庭園の宿 松溪苑

代表取締役社長 佐藤 俊夫